

職場がうまくいかないときの 心理学100

チームリーダーにおけるマネジメント・ガイド

芦高勇氣, 安藤史江,
伊東昌子, 渡辺めぐみ著

有斐閣, 四六判 256 頁, 2,860 円, 2023 年 12 月刊

(医療法人純和会) 米村高穂

本書は、職場の困り事や悩み事を解決するためのヒントが得られるように、250 以上の文献のエッセンスを 256 ページに纏めたものである。本書の読者の主な対象となるのは、職場でリーダー的な立場におられる方である。

構成は、Ⅰリーダーシップ、Ⅱワークマネジメント①ミスと進捗の遅れを防ぐ工夫、Ⅲワークマネジメント②的確な判断のための心得、Ⅳパフォーマンスチームを育てる、Ⅴマーケティング―商品の魅力を感じてもらうために、Ⅵコミュニケーション―意図や思いを受け取ってもらうために、Ⅶメンタルヘルスケア―あなたとわたしの心の健康のために、Ⅷモチベーション―働きがいのある職場づくり、Ⅸ

ダイバーシティー多様性を生かす職場づくり、と非常に多岐にわたっている。

本書で取り上げられている論文は、最新の職場事情に即しているため、大学で学ぶ心理学の内容に比べて新しいものが多い。また、左ページに文章による説明があり、右ページに図表やイラストで纏められているため、頭の中も整理しやすく、記憶に残りやすい配慮がされている。本書にたびたび出てくる「イマイチリーダー」「Good リーダー」という具体例もわかりやすい。「自分も思い当たるかもしれない」とハッとすることもおられるだろう。例えば、近年 Google が取り上げ、一般的に知られるようになってきた「心理的安全性」も、その一例である。「心理的安全性」が高い職場は、エラーをしても非難されないため、メンバーはエラーの報告だけでなく、相談したり、協力しやすい雰囲気醸成される。つまり、上司は、メンバーがエラーを報告してくれた時は、不用意に詰問をするのではなく、言葉遣いや態度に注意することが重要なのである。また、世のサラリーマンの中には、上司の指示がコロコロ変わり困っているという人も多いのではないだろうか。これに対して、本書では、30 代の課長の 80% 以上が「上司の指示をやり過ぎたことがある」という調査結果を紹介している。つまり、若くして課長になっている人ほど、仕事の優先順位を付け、上司の指示を上手にやり過ぎしていたのである。指示をすべて受け入れようとするあまり悩んでいる中間管理職にとっては目から鱗かもしれない。

最後に、本誌を御愛読の方は心理療法を実践し、関心が高い方が多いと思われる。評者も、単科の精神科病院で心理療法を実践している一心理職であるが、どうしてもクライアントの内的世界に関心がいきがちで、クライアントが実生活で体験していることを軽く見積もってしまうことがある。本書を通して、令和の時代に働くクライアントが社会から求められている価値観を知ることは、心理療法家の現実感覚を整えてくれるのではないかと感じた。そのような意味でも、本書は職場で困っているリーダーだけではなく、特に働くクライアント（社員）に関わる支援者にも一読していただきたい一冊である。